

科目名称：	造形表現指導法Ⅱ	
担当者名：	森田 ゆかり、坂井 亜也子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
・造形活動における全般的な発達・道筋を踏まえた上で、個々の「表現」や「思い」を読みとり受容できるよう‘みかた’‘考え方’を養う。 ・子どもの活動を支援するため、対象年齢や実態に即した活動内容・環境設定・対応などを考える。 ・造形活動を通して人と関わる面白さ、協働する喜びなどを知る。		
授業の達成目標・到達目標		
・多様な考えや価値観を尊重し、造形活動を通して他者との信頼関係を築いていくことができる。 ・表現の手段や方法を対象者・場・ねらいに即して柔軟に考えられる。 ・造形を通して「保育」の見方・考え方が広がり、造形活動（表現活動）の意義を理解できる。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP (2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組む幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP (3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》森田 アートスクール講師（2歳児～小学生の絵画・造形指導）	《経験年数1》2年6か月
	《内容2》森田 アートディレクター（こども対象のワークショップなど企画・実践）	《経験年数2》4年10か月
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
ディスコース 1（グループワーク）	他者の考えを尊重し、自分の考えを他者が納得できるように伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えを論理立てて伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えも伝えることができる。	自分の考えが他者に伝わらない。活動にあまり参加していない。
主体的・計画的取り組み（事前学修を含む）	授業の目標を理解し期待以上の主体的な学修が見られる。	授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組んでいる。	授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組もうとしている。	授業の目標を理解しているが主体的・計画的に取り組めない。
ディスコース 2（成果発表会・プレゼンテーション）	研究の成果を他者に伝え他者を納得させることができる。	研究の成果を論理立てて他者に伝えることができる。	研究の成果を分かりやすく他者に伝えることができる。	研究の成果が他者に伝わりにくい。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回	金城祭プロジェクト「O12ART」（KINJO特化特化造形表現・中間発表）① 計画・準備（ICT機器使用）	前期の取り組み全体を復習。	30分
第2回	金城祭プロジェクト「O12ART」②準備（ディスコース、グループワーク）（ICT機器使用）	前期の取り組み全体を復習。	15分
第3回	金城祭プロジェクト「O12ART」②展示準備	第2回の授業内容を復習。	15分
第4回	保育の改善①	『子どもが絵を描くとき』『美育文化ポケット』の、授業内容と関連するページを読む。	15分
第5回	金城祭プロジェクト③「O12ART」展示	第3回の授業内容（役割分担、活動内容など）を確認。□	15分
第6回	保育の改善②	『子どもが絵を描くとき』『美育文化ポケット』の、授業内容と関連するページを読む。	15分
第7回	「世界児童画展」の作品鑑賞、展示計画・準備（ICT機器使用）	1年次「保育内容・表現Aの指導法」授業（子どもの絵の見方）復習。	15分
第8回	「世界児童画展」の作品展示	1年次「保育内容・表現Aの指導法」授業（子どもの絵の見方）復習。	15分
第9回	保育の改善③	『子どもが絵を描くとき』『美育文化ポケット』の、授業内容と関連するページを読む。	15分
第10回	保育の改善④	『子どもが絵を描くとき』『美育文化ポケット』の、授業内容と関連するページを読む。	15分
第11回	プロジェクト活動（卒業研究・卒業制作）のまとめ（成果発表会ポスター・『実践のまとめ』原稿作成）	主体的・計画的に課題を進める。	20分
第12回	プロジェクト活動（卒業研究・卒業制作）のまとめ（成果発表会ポスター・『実践のまとめ』原稿作成）	主体的・計画的に課題を進める。	20分
第13回	プロジェクト活動（卒業研究・卒業制作）のまとめ（成果発表会ポスター・『実践のまとめ』原稿作成）	主体的・計画的に課題を進める。	20分
第14回	プロジェクト活動（卒業研究・卒業制作）のまとめ（成果発表会ポスター・『実践のまとめ』原稿作成）	主体的・計画的に課題を進める。	20分
第15回	「成果発表会」（ポスターセッション・展示）の準備、プレゼンテーション練習	発表ができるようポスターや資料を確認。	20分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、上記以外に次回までの小レポートをまとめることになる。			
成績評価の方法・基準			
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。			
ワークシート・プロジェクト活動のドキュメンテーション・まとめなど50%、成果発表会30%、授業への積極的関与20%			
課題に対してのフィードバック			
「ドキュメンテーション」をもとに→グループで「ディスコース」（必要に応じてさらに全体で「ディスコース」）→次の活動を「デザイン」することにより、学びのサイクルが生まれる授業を試みている（レジュ・エミリアの「3つのD」KINJO特化造形表現モデル）。また、提出されるワークシートなどに担当者が目を通し、担当者も次回の授業をデザインしている。			
教科書・参考書			
教科書：『美育文化ポケット 第37号～第40号』 公益財団法人美育文化協会、『子どもが絵を描くとき』 磯部錦司著 一藝社、『特化造形表現・実践のまとめ 第18号』 教科書は授業や事前事後学習で使用する。 参考書：『特化造形表現・実践のまとめ』バックナンバー、必要に応じてプリント配付			